

## 14. 広島県 広島県立図書館

### 地域の図書館サービス充実支援事業（平成18年度地域の図書館サービス充実支援事業）

#### (1) 事業の趣旨・概要

読書から遠ざかってしまった中高校生等ヤングアダルト（以下YAと表記）世代の読書推進のため、図書館・学校・ボランティア等との連携を図り、YAサービスの新たな手法を開発し、その手法を県内図書館に普及を行うことで、図書館サービスの充実を図る。

#### ※委託先・図書館の概要（平成20年3月末現在）

委託先	自治体・機関名	広島県立図書館
	所在地	〒730-0052 広島県広島市中区千田町3丁目7番47号 広島県情報プラザ内
	連絡先	TEL 082-241-4995
		FAX 082-241-9799
URL <a href="http://www.hplibra.pref.hiroshima.jp/">http://www.hplibra.pref.hiroshima.jp/</a>		
図書館の概要（平成20年3月末現在）	職員数	27人（うち司書21人）
	開館時間	火～金 9:30～19:00 土・日 9:30～17:00
	年間開館日数	289日
	蔵書数	（視聴覚資料・デジタル資料等を除く図書のみ） 663,719冊
	利用登録者数	158,482人
	年間利用者数	（入館者） 239,647人 （貸出利用者） 89,716人
	年間貸出冊数	174,925冊
	運営状況	職員は主に事業の企画・運営、選書、レファレンスを担当し、カウンター業務、複写、書庫出納は業務委託されている。

#### ※地域の現況・特色

広島県は、本州西端の中国地方に位置し、47都道府県の中で12番目に人口が多く、県庁所在地の広島市は中国四国地方最大の都市である。平成15年1月現在86あった自治体（市町村）が18年3月には23自治体（市町）となり、図書館設置率が統計上は上昇したが、サービス等の内容は大きく変化していない。また、合併による人員削減や雇用形態の変化などで、十分な職員配置がされていない地域も多い。

20年5月1日現在、県内公共図書館は89館（分館・分室・閲覧室含む）。

人口：287万人

## (2) 事業の実施体制

事業の実施にあたっては、以下2つの委員会を組織した。

### ① Y A 世代読書活動推進実行委員会

#### <委員構成>

大学児童教育学科教授（図書館学）、県教育委員会生涯学習課長、（社）青少年育成広島県民会議常務理事、県立高校学校長、広島市立中学校学校長、ひろしま子どもの読書活動団体等ネットワーク協議会役員、広島市こども図書館館長、福山市東部図書館館長、県立図書館館長 計9名

#### <主な役割>

事業全般に関する検討、各種調査協力、広報協力

### ② Y A サービス手法開発委員会

#### <委員構成>

ひろしま子どもの読書活動団体等ネットワーク協議会役員（Y A 世代読書活動推進実行委員）、県立高校司書、東広島市立サンスクエア児童青少年図書館職員、広島県子どもの読書連絡会会員、私立中高校司書 計5名

#### <主な役割>

普段からY A 世代に接している人から委員を選出。アンケート調査の検討、「Y A 向け推薦図書リスト」等作成、図書館を利用した調べものパンフレットの検討、ヤングアダルトに本を届ける工夫の検討。

## (3) 事業体系

実施した事業は下記の4つである。

① Y A 読書活動の現状把握、サービス手法の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>i Y A サービス手法開発委員会の開催</li> <li>ii 図書館、県内中・高校等におけるアンケート調査の実施</li> <li>iii Y A 向け推薦図書リスト等の作成・配布・インターネット公開</li> <li>iv 図書館を利用した学習に役立つパンフレットの作成</li> </ul>
② Y A 読書推進啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>i 講演会</li> <li>ii ボランティア・学校関係者・公共図書館職員交流会</li> <li>iii ボランティア養成講座</li> <li>iv 図書館職員向けY A サービス研修会</li> </ul>
③ Y A サービス実践活動及びY A の体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>i Y A コーナーの実験的運用 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 資料展示</li> <li>イ. ヤングアダルトつうしんの発行</li> <li>ウ. 本の紹介ポップの作成（来いぶらり・フレンズ作成）・掲示</li> <li>エ. お薦めの本のしおりの作成</li> <li>オ. HP 情報発信及びメルマガの発行</li> </ul> </li> <li>ii 中・高校生ボランティア養成講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 中・高校生ボランティア「来いぶらり・フレンズ」ステップアップ講座</li> <li>イ. 中・高校生ボランティア「来いぶらり・フレンズ」養成講座</li> <li>ウ. 中・高校生ボランティア活動</li> <li>エ. 県内中高生ボランティア・学校図書委員交流会</li> </ul> </li> </ul>
④ 大学図書館との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>i 大学図書館との相互貸借等連携</li> <li>ii 県内公共図書館・大学図書館の利用方法調査</li> </ul>

#### (4) 当事業に取り組んだ背景・経緯

平成15年度に「広島県子どもの読書活動推進計画」が策定された。計画の中では、読書離れの進んでいる中高生に対する図書館サービス推進のため、「平成19年度までに県内公共図書館のYAサービスの実施率が60%になるように働きかける」という目標を掲げている。平成15年実施の日本図書館協会による「公立図書館におけるヤングアダルトサービス実態調査報告」では、全国のYAサービスの実施率は40.8%である。

県立図書館では、平成15年度から中・高校生ボランティア「来(ら)いぶらり・フレンズ」の養成を開始した。また、YA世代の利用が少ないことやYA向けの資料自体も少なかったことを踏まえ、「ヤングアダルトサービス実施要綱」を作成し、資料選定基準を定めた。平成18年3月にはYAコーナーを設置し、同時にYA向けホームページ(以下HPと表記)を開設した。こうした県立図書館によるYAサービスの試験的な実施の中で、新たな方策を開発し、成功例だけでなく失敗例も含めて、県内公共図書館、学校図書館等に伝えていくことに意義があると考えた。

#### (5) 各事業の内容と現在までの取り組み状況

##### ① YA読書活動の現状把握、サービス手法の開発

###### i YAサービス手法開発委員会の開催

YA活動の現状把握、アンケート調査の実施、「YA向け推薦図書リスト」や図書館を利用した調べものパンフレットの作成、ヤングアダルトに本を届ける工夫について、委員会で検討された。中でも、「YA向け推薦図書リスト」では、各委員が50冊ずつ推薦した中から全体のバランス等を考慮して作品を選定し、『2007 広島県のヤングアダルトへ贈る 99』として冊子にまとめた。また、冊子だけではYAが目にする機会が充分ではないことを考慮し、冊子の中から12作品を選び、A2サイズのポスターを作成した。

###### ii 図書館、県内中・高校等におけるアンケート調査の実施

「読書及び図書館の利用に関する調査(中学生・高校生対象)」、「県内公立図書館におけるヤングアダルトサービス調査」、「広島県内読書活動ボランティア実態調査」を実施した。

##### <調査からわかったこと>

- 県内の公共図書館、学校図書館でのYAの利用率が低い。
- YA世代は映像化された本を好み、興味を持っている。
- YA世代の図書館利用の主な要因としては、読みたい本が置いてあること、快適な読書空間が挙げられた。
- YAサービスを実施している県内公共図書館は34.7%である。
- YAに対するボランティア活動で難しいと感じていることでは、YA世代への理解・対応の難しさ、選書の難しさ、YA自身の多忙が挙げられた。

###### iii YA向け推薦図書リスト等の作成・配布・インターネット公開

YAサービス手法開発委員会により『2007 広島県のヤングアダルトへ贈る 99』が作成され、配布、インターネット公開が行われた。結果としては、多くのYA世代にリストを手渡すことは難しく、図書館担当者等の選書の参考にはなったが、YA自身に好評だったとは言い難い。



平成 18 年度の推薦図書リスト

モノクロ印刷  
約 40 ページの冊子

<推薦図書リストの問題点>

- 大人が YA に薦めたい本と YA が読んでみたい本との間にズレがあった。
- 大学生の作成した表紙以外は、イラストのないモノクロ印刷であり、YA を惹きつけにくかった。
- 誰が推薦している本なのかわからなかった。
- 作成部数が少なく、県内中・高校、特別支援学校に 2 冊ずつの配布となったため、YA である生徒たちが活用しにくい状況であった。
- ⇒直接 YA の目に止まるように A2 サイズのポスター（カラー両面印刷）を追加で作成した。

【工夫のポイント】

YA 自身の目に触れやすいカラー印刷のポスターにし、ポスターのキャッチコピーは YA からのアンケートにより、下記 2 種類を採用した。

『「今すぐ 感動?!」～ぶちおもしろいらしい…～』  
 （「ぶち」＝「とっても」という広島弁）  
 『この本ええよ～ 本はいつでもそばにいてくれる』



平成 18 年度のポスター

<19 年度以降の取り組み>

- 平成 19 年度—YA が選書、紹介文作成等を担当し、本の紹介リーフレットを作成  
 『「ボクたちからのオススメ本」～ホントの楽しさを発見!!』(推薦図書リスト) を作成
- 平成 20 年度—『この本知ってる?マジおもしろいよ!!』(推薦図書ポスター・チラシ) を作成

【工夫のポイント】

『「ボクたちからのオススメ本」～ホントの楽しさを発見!!』では、リストに掲載する本の選書、紹介文、表紙のデザイン、中のページのイラストを YA 自身が担当し、推薦者のイニシャル入りで掲載した。また、形態を折りたたみ式でコンパクトなサイズのカラー印刷にした。配布方法としては、「YA FAIR」で来場した YA 等に直接配布した他、県内公共図書館等に配布した。

★同じ YA からの推薦ということで YA 自身がリストを身近なものに感じることができた。





### 【取り組みのヒント】

1枚のパンフレットに内容を網羅的にまとめたが、後にYAにはトピックスごとにまとめた小さいものが多い種類あった方が利用しやすいことがわかった。今後、作成の際には工夫する必要がある。

## ②YA読書推進啓発事業

### i 講演会

対象：中・高校生の読書活動に関心のある県民

演題：「ヤングアダルト図書館サービス」

講師：獨協大学准教授（専門：児童・ヤングアダルト図書館活動、アメリカ公共図書館活動・図書館史）

内容：YAに対する図書館サービスについて、アメリカの実践事例を紹介しながら資料・施設・行事・YA向けサービスプログラム例を解説、講義。

⇒YAサービスを始めたばかりの時期ということもあり、職員自身もYAサービスとはどういうものを理解するのに役立った。

### 【取り組みのヒント】

18年3月にYAコーナーを手探りで始め、どんな本を置いたらよいかもわからなかった。ファンタジー等の分厚い単行本なども置いていたが、講師からそういう本ばかりではYAの関心を喚起しにくく、手に取らないと指摘された。

★YAにとって親しみやすく、手に取りやすいものを吟味して置く必要がある。

### ii ボランティア・学校関係者・公共図書館職員交流会 ※講演会実施日の午後に設定

対象：中・高校生の読書活動に関心のある県民（学校教諭、学校図書館・公共図書館職員、ボランティア、学生など様々な立場の人が参加）

内容：事例発表（ボランティアグループ、公共図書館、高等学校、中学校）、参加者の事例報告、質疑応答等

### iii ボランティア養成講座

対象：中・高校生の読書活動推進ボランティアを目指す人（子どもの読書活動推進ボランティア経験3年以上）

内容：全6回。1回目に先記講演会・交流会に参加。2～6回目で主に講義&実習形式で実施。ブックトークの組み立て・発表会、ボランティアとしての活動について、図書館のヤングアダルトサービスについて、青少年との交流のヒント（ピアサポート）など。

⇒大人がYAに読ませたい本とYAが読みたい本との間に隔たりがあることを共通認識できた。また、ブックトークの実習をグループ形式にしたことで参加者同士の交流も図ることができた。

### iv 図書館職員向けYAサービス研修会

対象：県内公共図書館・学校図書館・大学図書館職員等

内容：講演、事例発表、意見交換

※この事例発表において、本事業で実施した各種アンケート調査の結果報告を行った。

⇒この委託事業全般を通して、大人が考えていることと子どもが感じていることにズレがあることがわかった。そのことを伝えられたことが1つの成果である。また、先進事例を学び、講師から「テーマ展示は数冊からでもよい」とアドバイスを受け、市町図書館職員も取り組みに意欲を示していた。

### ③YAサービス実践活動及びYAの体験活動の推進

#### i YAコーナーの実験的運用

##### ア. 資料展示 (各展示を3～4ヶ月間実施)

- 「広島発!! 音楽魂 広島出身のアーティスト～CDを中心に～」
- 「ヤングなハートに贈る 現代のアメリカ文学」
- 「ヤングアダルトハローワーク～中・高校生のための仕事・就職案内～」

##### イ. ヤングアダルトつうしんの発行

「ヤングアダルトつうしん」一職員が作成  
内容: YAコーナー、行事、本・CDの紹介、YA BOX  
に投稿があったメッセージの紹介など

「ヤングアダルト通信号外」—来いぶらり・フレンズによる編集・製作で不定期発行  
内容: 本の紹介、自作のエッセイ・小説、イラストなど、  
本に関わることであれば内容は自由。

自分が取り組みたいテーマで1～2人位で編集。

※YAコーナーに設置したところ、部数も順調に消化され、  
YAに読まれている。

来いぶらり・フレンズが作成した  
「ヤングアダルト通信号外」



#### 【工夫のポイント】

「ヤングアダルト通信号外」は来いぶらり・フレンズのメンバーがそれぞれの興味関心・特技を活かす形でYAからYAへの情報発信ツールとした。

平成18年度に「編集講座」を開催したが、それ以降は特に編集に関する講座等はない。現在は、先輩たちの作成したものを参考にメンバーが作成している。当初、編集のマニュアル的なものがないことから、印刷の段階で問題が生じることがあった。現在は、印刷可能範囲、偶数ページで編集、タイトル・号数・奥付を入れるなどの基本的な条件を示した『「ヤングアダルトつうしん号外」作成時のお願いごと(10カ条!)』を渡してあり、それに沿って編集作業をしている。

##### ウ. 本の紹介ポップの作成 (来いぶらり・フレンズ作成)・掲示



##### エ. お薦めの本のしおりの作成

##### オ. HP情報発信及びメルマガの発行

###### ○ヤングアダルトのページ

平成18年3月YAコーナー開設と同時に県立図書館HP上に  
「ヤングアダルトのページ」も開設した。  
(YAサービス担当の職員が作成・更新)

###### ○メールマガジン

来いぶらりフレンズのうち希望者に行事・「ヤングアダルト  
つうしん」・資料展示等の情報をメールマガジンで発信した。  
※18年度のみ

「ヤングアダルトのページ」のトップ



## 「来いぶらり・フレンズ」とは

平成 15 年度に中・高校生生の社会参加・体験の場としてスタートした。活動内容としては、県立図書館内でおはなし会ボランティア、利用案内ボランティア等を行っている。

養成講座修了者のうち県立図書館での活動を希望した者は「来いぶらり・フレンズ」として登録される。「来いぶらり・フレンズ」に参加してほしい行事予定が登録者に郵送され、登録者の参加できる日に来てもらう方式で活動を行っている。養成講座は中・高校生対象だが、「来いぶらり・フレンズ」としての活動は時間に余裕がある大学生になってからの方が活発になる。参加者の8～9割が女の子であり、学校の図書委員、将来保育士や教員になりたい子もいる。

また、図書館に来る子は基本的に本を読む子が多いので、本の紹介などの活動を通して、読まない子への橋渡しをしてもらうこともねらいの1つになっている。平成 18 年度からは、イラストや本の紹介ポップの作成など、自分の特技を活かす活動も取り入れる形にシフトしている。YAが持っている様々な力を図書館が借り、YA自身もそれが認められることによって充実感や達成感を持てるような活動になってきている。

平成 20 年度登録者：中学生 9 名、高校生 9 名、大学生等 19 名 計 37 名

### ii 中・高校生ボランティア養成講座

#### ア. 中・高校生ボランティア「来いぶらり・フレンズ」 ステップアップ講座

対象：「来いぶらり・フレンズ」1 期生～3 期生

内容：ホームページ作成講座、利用者ボランティアステップアップ講座、おはなしボランティアステップアップ講座、ヤングアダルトつうしん編集講座

※19 年度以降も継続

#### ヤングアダルトつうしん編集講座



#### イ. 中・高校生ボランティア「来いぶらり・フレンズ」養成講座

対象：中・高校生（新規募集）

内容：全 3 回。講義&実習・見学形式で地域の子どもたちに本の読み聞かせや紹介を行うボランティア活動に必要な知識等を習得

広報：県内中学高校・公共図書館にポスター掲示、各報道機関への情報提供、学校の先生からの紹介、来いぶらり・フレンズによる口コミ

#### 養成講座での読み聞かせの実習



#### <19 年度以降の取り組み>

平成 18 年度は 2 月の土曜日に実施したが、平成 19 年度からは YA の参加しやすさを考慮し、夏休みに 2 日間の講座で実施した。その結果、受講者が増加した（平成 18 年度は 3 名→平成 19 年度・20 年度とも 14 名の参加）。

#### ウ. 中・高校生ボランティア活動

##### ○定例活動日活動（第 2・4 土曜日に設定）

お薦めの本の情報発信、図書館紹介ポップ作成、「ヤングアダルト通信号外」等の企画・編集など、図書館行事への参加以外の活動を行っている。来たい人、来られる人が自主的に来るといふ自由な活動となっており、行事へ参加した小学生へ渡すしおりなどを自宅で作って持ってきてくれる来いぶらり・フレンズもいる。活動のねらいは、来いぶらり・フレンズが参加できる場所を恒常的に設けることにある。

※19 年度以降も継続



### ○小学生のための夏休み図書館活用講座、小学生のための冬の図書館活用講座

来いぶらり・フレンズが寸劇やクイズなどを駆使して小学生に図書館の活用法などを紹介・説明する。シナリオ作成など下準備は図書館職員が行い、参加できる来いぶらり・フレンズが当日に練習してから本番に臨む。 ※19年度も継続

### ○夏休みおはなしかいウィーク、2006 生涯学習フェスティバル

来いぶらり・フレンズが、おはなし会で子どもたちに絵本などの読み聞かせを実施する。

※おはなし会の活動は19年度以降も継続

### ○平成18年度中・高校生ボランティア「来いぶらりフレンズ」養成講座

後輩ボランティアに対して、1～3期生が活動報告や実習のアシスタントを行う。 ※19年度以降も継続



### ○青年地域貢献活動「やる気じゃネット！青春じゃけん」実践交流会

県内青年ボランティア活動グループ・サークルが、一堂に会する場で活動の報告、交流を行った。

#### 【工夫のポイント】

- 中・高生など、学校の部活動などで忙しいYAが参加しやすい環境を整える必要がある。また、予定している「来いぶらり・フレンズ」のメンバーが来ないこともあり、臨機応変に対応する職員側の態勢も必要である。
- 行事終了後、反省会の場を設けている。その結果、学校・校種が異なる来いぶらり・フレンズ同士が自由におしゃべりし、貴重な交流の場になっている。
- メンバー1人1人に活動記録を記入してもらおう。活動記録は、職員が活動状況の把握やYAの意見などを参考にすることに役立てられている。

#### 来いぶらり・フレンズの活動記録用紙

#### エ. 県内中高生ボランティア・学校図書委員交流会

来いぶらり・フレンズによる図書館書庫案内や図書委員・来いぶらりフレンズの活動発表・意見交換を行った。

#### ④大学図書館との連携

##### i 大学図書館との相互貸借等連携

平成18年7月、広島県大学図書館協議会と広島県公共図書館協会の間で相互協力に関する協定が結ばれた。

##### ii 県内公共図書館・大学図書館の利用方法調査

各大学等の利用条件を県立図書館HP上で公開した。

## (6) 事業の成果・効果と事業実施後の取り組み

### ①事業の成果・効果

事業の主な成果・効果は次のとおりである。

#### i 県内図書館への波及効果

##### ○県立図書館の取り組み事例が県内公共図書館にとっての参考事例となっている

県内公共図書館の職員・ボランティアの研修や館長が出席する協議会などで、機会がある度にこの委託事業の中で成功したこと、失敗したことも含め報告した具体例が、各図書館でYAサービスに取り組む際の参考事例となっている。

★成功事例・失敗事例をあわせ具体例を示すことで、他の図書館に参考にしてもらうことができている。

##### ○YAサービスに関しての県立図書館への相談件数が増加した

YAサービスは実際にやってみないとわからない部分が多く、自館を訪れるYAがどんな人たちがわかって、はじめて必要なことが見えてくる。県立図書館がYAサービスの新たな手法の開発に取り組んだことで、県内の公共図書館やボランティアからの電話相談、来館相談・見学も増加している。

⇒この3年間でYAサービスに取り組む図書館が増加している(YAサービス実施率:平成18年度—34.7% →平成19年度—59.6%)。実施内容としては、YAコーナーの開設、YA関連の本の展示、夏休みボランティアの募集、お薦め本のポップの開始等である。

#### ii YA世代の図書館利用の促進

##### ○YAが図書館の様々な活動に関わるようになった

「来いぶらり・フレンズ」の活動をはじめ、本の紹介ポップの作成、YA BOX へのメッセージやイラストの投稿など、図書館の様々な活動にYA世代に関わる機会が増え、関わる人数も少しずつ増えている。

##### ○中学生世代での図書の貸出利用が増えている

13歳～15歳の中学生世代では、図書の貸出数が増加している。

##### <1日平均の貸出冊数(年平均)>

	17年度	18年度	19年度
13歳～15歳	14.1冊	16.1冊	16.4冊
16歳～18歳	11.9冊	11.1冊	10.2冊

※中学生世代の貸出冊数は伸びているが、高校生世代では減少している。高校生世代の利用促進が必要である。

### ②事業実施後の取り組み

委託事業実施後、次のことに取り組んだ。

#### i 「YA FAIR」の開催 平成19年12月8日(日)13:30～15:30

平成19年度に文部科学省委託事業「子ども読書応援団推進事業」により「YA FAIR」を開催した。企画運営に来いぶらり・フレンズが関わった。

### <内容>

- 『「ボクたちからのオススメ本」～ホントの楽しさを発見!!』を作成・配布
  - YA向け図書の展示（ブックリスト「2007 広島県のヤングアダルトへ贈る 99」掲載の本）
  - YA向け資料等の展示・掲示・配布  
「ヤングアダルトつうしん」、資料展示リスト、「広島県中学生・高校生のための調べ学習ガイド」、お薦め本のPOP
  - 「来いぶらりフレンズ」の活動紹介（活動写真などの展示）
  - HPで見るYAサービスの紹介
  - オリジナルブックカバー&しおり制作
  - パネルディスカッション「ホントの楽しさ 発見！」  
パネラーを選定する際、YAに意見を聞き、広島県でYAに人気のある人を選んだ。  
⇒中国放送アナウンサー、広島東洋カープ選手、現役の県立高校生歌手、作家などのYAに人気のあるパネラーが揃い、「読書に関する思い出、本への思い」などがディスカッションされた。
- ※当日の参加者 144 名中 6～7 割がYA世代となり、内容も好評で成功を収めた。

### 【取り組みのヒント】

YA世代の参加を促すには、YAの視点、YAが身近なものと感じる取り組みが必要である。

### ii 図書館へ行こう月間の実施 平成19年10月13日（土）～11月18日（日）

平成19年度に県内公共図書館に呼びかけ「図書館へ行こう月間」が設定された。県内公共図書館で実施するYA世代を対象とした事業の情報を収集し、「図書館へ行こう」という統一キャッチフレーズで一斉広報を行ったことで、NHK広島、RCCラジオ、中国新聞、西広島タイムズで取り上げられた。

※YAの利用実態を考えると期間を夏休みの時期に設定したほうが有効であるが、夏休みの時期はどの図書館でも繁忙時期に当たるため、職員態勢などの面から運営が難しいという課題がある。20年度は未実施。

### iii ヤングアダルトコーナーの充実

平成18年3月に開設したコーナーをYAの意見やアイデアなども取り入れながら充実させていった。現在、主に設置している図書は、読み物、進路に関するもの、仕事・就職に関するもの、先輩たちの生き方を扱ったもの等になっている。

### 【取り組みのヒント】

- コーナー自体が目立つような工夫が必要である。
- YAは自分に役立つ情報があることがわかると利用が増える傾向が見られる。



図書館の入口からすぐの目立つ場所に設置

## ア. YA BOX設置

YAの声を聞く、YAからの情報発信の場として設置された。内容としては、どんな本を置いてほしいか、自分のお気に入り（本、音楽、映画など）の紹介、イラスト等である。特に、イラストが上手な子のメッセージを掲示後、YAの投稿が増えている。



## イ. YAによる本の紹介ポップなどの掲示

来いぶらり・フレンズや職場体験実習生が作成したポップを掲示する。「YA手書きポップ大賞」—YAコーナーの柱にYAが作成したポップを掲示し、来館者がシール貼りで投票を行い、その結果をHPやパンフレットなどで紹介した。

## ウ. 資料展示

YAに関心が高いテーマで本を集めて「テーマ展示」を行っている。また、YAからのおススメ本のポップの掲示にあわせ、推薦図書自体も展示している。

★YAの意見・感性を反映させ、YAに受け入れられる運営が大切である。  
ヤングアダルトハローワークコーナー



ポップの掲示



紹介された ⇒  
おススメ本の展示



## (7) 課題と今後の展望

### ①課題

課題としては主に次のようなことが挙げられる。

#### i 高校生世代の利用促進

中学生世代の貸出冊数は伸びているが、高校生世代では減少している。ヤングアダルトコーナーの認知度を上げていくことと、現状より少し大人っぽい選書や行事等を行い、高校生世代の利用を促進していく必要がある。

#### ii HP「ヤングアダルトのページ」の充実

YA世代が興味・関心をもつ内容や役立つ情報を掲載し、アクセス数を上げることによって、図書館利用の促進につなげることが必要である。

#### <HP「ヤングアダルトのページ」アクセス数>

	半年間のアクセス件数	アクセス累計
H18. 3. 13	開設	—
H18. 9. 28	2447	2447
H19. 3. 31	1604	4051
H19. 9. 25	2202	6253
H20. 3. 31	3717	9970
H20. 9. 30	2817	12787

### ②今後の展望

県内公共図書館の職員態勢（人員減など）や財政状況が年々厳しくなる中で、YAサービスを充実させるための手法の更なる開発、工夫をしていく予定である。